

ADA2016参加印象記

2016年6月10日～14日
New Orleans, LA

原島 伸一

Shinichi Harashima

京都大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科学 講師

はじめに

第76回米国糖尿病学会年次学術集会(ADA2016)が、6月10日(金)～14日(火)にニューオーリンズで開催された(写真1)。南部らしい気候の中、世界各国から多くの参加者が集い(写真2)、天候にも負けない熱い議論が展開された。

注目されたセッションの中で、今回は、GLP-1受容体作動薬であるリラグルチドの心血管イベントの安全性を評価する「LEADER試験」の結果と、SGLT2阻害薬エンパグリフロジンにおける「EMPA-REG試験」の腎アウトカムについて紹介する。

GLP-1受容体作動薬による心疾患リスク抑制初めてのエビデンス

LEADER(the Liraglutide Effect and Action in Diabetes: Evaluation of Cardiovascular Outcome Results)試験の結果が、6月13日(月)に発表され会場は多くの参加者で溢れかえった(写真3)。LEADER試験は、32ヵ国410施設が参加した国際共同、多施設、無作為化二重盲検、プラセボ対照比較試験で、リラグルチド(1.2 mg・1.8 mg、国内最大用量0.9 mg)の主要複合アウトカムである複合心血管アウトカム(心血管死、非致死性心筋梗塞、非致死性脳卒中)に及ぼす影響が評価された。対象は50歳以上でかつ冠動脈疾患・



写真1 今回のモニュメント

ジャズ発祥の地、ニューオーリンズにあやかりジャズ演奏者がフィーチャーされていた。



写真2 世界各国からニューオーリンズに参加者が集結

フロアには世界地図が貼られており参加者はマップピンを自国に刺していた。